

(第7章) 市代表団・市民訪問団がウズベキスタンを訪問

【代表団・訪問団】

舞鶴市代表団：6名（団長：多々見舞鶴市長）

舞鶴市民訪問団：29名（団長：水嶋日星高校校長）

【日程】

2019年8月6日（火）～13日（火）

●2019年8月6日(火)

約8時間40分のフライトを経て、総勢35名の代表団・訪問団がサマルカンド国際空港に到着。空港では、2名の日本語ガイドが出迎えてくれました。



関西国際空港搭乗口



サマルカンド国際空港に到着

●2019年8月7日(水)

レジスタン広場で、今回のチャーター便の乗客に対するウズベキスタン観光庁主催歓迎セレモニーが開かれ、ウズベキスタン伝統音楽や伝統舞踊が披露されました。午後は、シャーヒズィンダ廟群等を見学しました。



ウズベキスタン観光庁主催歓迎セレモニー



レジスタン広場



シャーヒズィンダ廟群



プロフ



プロジェクションマッピング

●2019年8月8日(木)

午前中はホテルで休息、午後はウルグベク天文台跡やアフラシャブ博物館を見学し、夕方、特急アフラシャブ号でタシケントへ向かいました。



ウルグベク天文台跡



アフラシャブ博物館



特急アフラシャブ号



タシケント駅に到着

●2019年8月9日(金)

タシケント駅を 08:05 発の列車でコーカンドへ移動。コーカンドでは日本人墓地を参拝しました。ウズベキスタンでは 812 名の日本人抑留者が亡くなられており、ウズベキスタン国内に 13 カ所の日本人墓地があります。フェルガナ州コーカンド市の日本人墓地には、240 名の御霊が眠っています。

多々見市長による献花・焼香、水嶋市民訪問団団長による献花・焼香、木村智子さんによる献茶、その後全員で「ふるさと」を合唱しました。墓地の清掃・管理を行っている現地の方が来られたため、市長から感謝の意を伝えました。その後、フダヤル・ハン宮殿、ジャミ・モスクを見学し、ホテルにチェックイン。



コーカンドへの列車



Noriko 学級の生徒たちが出迎え



コーカンドの日本人墓地を参拝



遺影を手に献茶



「ふるさと」を合唱



管理人の方に感謝の意を伝える



●2019年8月10日(土)

今年5月に舞鶴に来られたガニシエル氏が無償で運営している日本語学校『Noriko 学級』を訪問。生徒達が日本語による歌や弁論、楽器演奏、踊りを披露してくれました。市民訪問団は Noriko 学級で生徒達と交流し、その間、市代表団と介護福祉関係者はリシタン市役所を訪問しました。

リシタン市役所では、フェルガナ州アブドラフモノフ副知事、リシタン市マダミノフ副市長と会談。舞鶴市とリシタン市の間で交流を進めていくことで合意しました。



Noriko 学級で生徒たちと交流







リシタン市役所を訪問

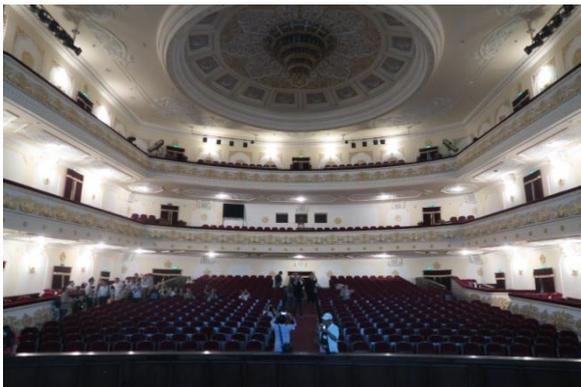
●2019年8月11日(日)

午前中は、ナボイ劇場を訪れ、美しい幾何学的装飾を施した内部を見学しました。

午後は、79人の日本人抑留者の御霊が眠るタシケント日本人墓地を訪問。多々見市長 献花・焼香、水嶋市民訪問団団長による献花・焼香、木村智子さんによる献茶、その後全員で「ふるさと」を合唱しました。親子三代にわたり墓地を管理しているファジロフさんに市長から感謝の意を伝えました。

墓地に隣接する日本人抑留者資料館を訪問。ジャリル・スルタノフ館長及び孫娘のリソラットさんの案内により資料館展示を見学しました。

その後、スルタノフ館長宅に招かれ、ウズベキスタン伝統音楽の演奏が披露され、ウズベキスタン料理が振る舞われました。



ナボイ劇場を見学



タシケントの日本人墓地を参拝



管理人の方に感謝の意を伝える



日本人抑留者資料館を見学



スルタノフ館長のご自宅に招待される

●2019年8月12日(月)

日星高校関係者は国立東洋学大学付属高校を訪問し、同校の校長と懇談しました。日星高校は、2017年11月から同校とインターネットを利用した交流を行っています。今後も同校日本語学習者と日星高校との間で、お互いの国や文化のことを学び合う交流を続けることを確認しました。

その後、柔道・レスリング関係者とオリンピック委員会を訪問。ルスタム委員長ほか、レスリング協会、柔道連盟の代表と面談し、今年夏の柔道代表選手団、レスリングジュニアチームの合宿について、歓迎の意を示すとともに、来年のオリンピックにおける事前合宿の万全な準備体制と市民を含めた全市を挙げての歓迎を約束し、先方からは、事前準備と本市の積極的な姿勢を評価いただき、オリンピック本番に向けて東京五輪ホストタウンとして大きな期待が示されました。

午後は、文化省を訪問し、副大臣と会談。多々見市長からは、ファジロフ駐日大使が来鶴時に世界遺産の施設やナボイ劇場の赤れんがを展示すればどうかとの提案を受けたことを説明し、寄贈を要請しました。また、舞鶴へのナボイ芸術団招聘の意向を伝えました。

副大臣からは、赤れんがの寄贈やナボイ芸術団の派遣はウズベキスタンのPRにもつながり光栄であり検討すると前向きな発言がありました。

最後にヤッカサライ区役所を訪問。ヤッカサライ区における経済政策について説明を受け、副区長、広報担当と意見交換を行いました。スルタノフ館長も同席されました。

夕方、全ての日程を終え、タシケント国際空港から帰国の途に就きました。



国立東洋学大学付属高校を訪問



オリンピック委員会を訪問



施設内を見学



文化省を訪問

ヤッカサライ区役所を訪問

●2019年8月13日(火)

午前、関西国際空港に到着。代表団・訪問団の全員が無事に舞鶴に帰ってきました。